改元記念特集

広報誌で振り返る「平成」の幌延町

No.7

幌延町広報誌「ほろのべの窓」2018年10月号　No.648（平成30年10月号）

［こんなことが掲載されました］

診療所だより「備えあっても憂いあり？」

平成30年9月6日未明、最大震度７を記録して北海道全域停電（ブラックアウト）を引き起こした胆振東部地震が起きました。震源地から200km以上離れた幌延町でも震度２を計測。人畜被害はなかったものの、停電の完全復旧には２日間かかり、産業や生活にさまざまな影響を及ぼしました。

同年広報誌10月号では、町立診療所の田川豊秋医師がコラム「診療所だより」で災害時の備えの大切さを紹介しています。田川医師は、阪神淡路大震災やハイチ地震など国内外の災害現場で医療活動を行った経験から、「家庭では停電に備えた照明や食糧などの備蓄は十分でしたか」「生活を維持するためにそれらを使いこなせましたか」と呼びかけました。診療所では、患者の命を守る最低限の機能を維持する非常用電源は確保できた一方で、電話の不通や電子システムの障害で臨時休業を余儀なくされた、と反省点を振り返っています。

30年あまり続いた平成は、数多くの想定外の災害に見舞われました。令和になった今年10月も、東日本を中心に記録的大雨をもたらした台風19号による河川の氾濫で、多くの命が奪われました。

町は近年、災害対応のため、地震による津波や天塩川・問寒別川の氾濫で堤防が決壊した場合の浸水域などを示したハザードマップを全戸配布。リース会社やコンビニと災害時協定を結んだり、告知端末機の更新などで情報伝達手段を改めています。ただ、各人が防災意識を高めることが最も重要です。過去を教訓に災害への備えを心がけましょう。

表紙は「長寿まつり」でした。▲

今月号で、改元記念特集 広報誌で振り返る「平成」の幌延町 を終わります。

ほろのべの裏窓

■今月号の広報誌は、全16頁中８頁がカラー刷りです。ふだんは表紙と裏表紙のみがカラー面ですが、製本・印刷を委託する業者との協議を進めていく中で、相手方から「誌面の制作過程上、頁数が16頁の場合に限り、同じ経費で８頁をカラー面にすることが可能」という提案がありました。そこで、今月号は16頁で収まる構成だったので試してみました。いかがだったでしょうか。

■カラー面は、まず４、５頁の交通事故死ゼロの特集を彩りました。次に、８、９頁の「まちの話題」では、競い合いながら秋空の下を駆け抜けるランナーたちの様子を紹介。12頁の「酪農体験ツアー」では、雄大に広がる草地の緑と、餌を求めて所狭しと並ぶ白黒の牛たちを臨場感をもって表現することができたと思います。

■毎月都合よく16頁に編集することは難しく、再びカラー面を多く使えるのはいつになるか分かりません。ただ、思い出の一瞬を切り取る写真をきれいな形で記録し、町民に伝えられるような工夫を今後も考えていきたいです。

●広報へのご意見、ご要望をお寄せください●
住民生活課生活グループ
電話：５―１１１２／告知端末機：５―８８１２

まちのうごき

男	1,178	（－１）
女	1,122	（－３）
計	2,300	（－４）
世帯数	1,244	（－６）

（令和元年9月末日現在）
※（　）内は前月比

わが家のエンジェル

松村 季帆（きほ）ちゃん

（平成31年２月10日生・幌　延）
お父さん　渉　汰　さん
お母さん　由　季　さん

わが家の第二子 季帆です。7カ月に入る前にはつかまり立ちを、８カ月に入る前にはつかまり立ちから５歩も歩きました。２人目の成長のはやさを感じています。大好きなお姉ちゃんとすくすく育ってね☺

佐藤 柚樹（ゆずき）くん

（平成31年２月25日生・幌　延）
お父さん　美　彦　さん
お母さん　由　梨　さん

お姉ちゃんが大好きな柚樹です。お散歩に行くことも大好きで、ベビーカーに乗り、最近生えた小さい歯を出してニコニコ。これからも姉弟仲良く、大きくなってほしいです。

■令和元年11月　■発行／天塩郡幌延町
■企画・編集／住民生活課生活グループ　■印刷／株式会社須田製版
■幌延町ホームページアドレス／http://www.town.horonobe.hokkaido.jp